

【事業の経緯】

別添資料1

砂防-1 鷲尾岳地区地すべり対策事業の経緯

審議経過	再評価の理由	工期		事業費 (億円)	B/C	概要
		着工	完了			
当初 (H8対策検討委員会)	-	S32	H30	97.4	-	集水井工 N=29基 深礎工 N=36本 アンカー工 N=224本
第一回審議 (H14)	事業採択後 10年経過	S32	H30	97.4	1.12	集水井工 N=29基 深礎工 N=36本 アンカー工 N=224本
第二回審議 (H19)	再評価後 5年経過	S32	H30	100.4	1.41	集水井工 N=31基 集水ボーリング工 N=844本 横ボーリング工 N=21本 深礎工 N=36本 アンカー工 N=224本
第3回審議 (H24)	再評価後 5年経過	S32	H29	100.4	1.6	集水井工 N=32基 集水ボーリング工 N=1222本 横ボーリング工 N=34本 深礎工 N=36本 アンカー工 N=224本 排水トンネル N=5本 頭部処理工 V=44000m ³
第4回審議 (H29:今回)	再評価後 5年経過	S32	H34	107.1	1.57	集水井工 N=32基 集水ボーリング工 N=1346本 横ボーリング工 N=26本 深礎工 N=36本 アンカー工 N=224本 排水トンネル N=5本 頭部処理工 V=44000m ³

事業再評価調書

事業名	地すべり対策事業	地区名	鷲尾岳	所在地	江迎町																																			
評価年度	平成29年	事業主体	長崎県	担当部課名	土木部砂防課																																			
事業概要	<p>(1)事業目的 鷲尾岳地区地すべり対策事業は、佐世保市江迎町に位置しており、過去には崩壊によって周辺の倉庫を全壊させたり、松浦鉄道の線路を歪曲させるなどの被害を発生させている。斜面下部には人家1,686戸のほか松浦鉄道、国道204号等の交通網や2級河川江迎川などが存在し、万一土塊が下流へ流下した場合、その被害は甚大なものと予想されることから、対策工事を実施することで、地すべり災害を未然に防止することを目的とする。</p>																																							
	<p>(2)主な事業内容 (前回) (前回)</p> <table border="1"> <tr> <td>集水井工</td> <td>N= 32 基</td> <td>(32 基)</td> <td>L= 1,179 m</td> <td>(1,162 m</td> </tr> <tr> <td>集水ボーリング工</td> <td>N= 1346 本</td> <td>(1222 本)</td> <td>L= 55,069 m</td> <td>(47,384 m</td> </tr> <tr> <td>横ボーリング工</td> <td>N= 26 本</td> <td>(34 本)</td> <td>L= 5,024 m</td> <td>(5,359 m</td> </tr> <tr> <td>深礎杭工</td> <td>N= 36 本</td> <td>(36 本)</td> <td>L= 1,375 m</td> <td>(1,375 m</td> </tr> <tr> <td>アンカー工</td> <td>N= 224 本</td> <td>(224 本)</td> <td>L= 6,680 m</td> <td>(6,680 m</td> </tr> <tr> <td>排水トンネル工</td> <td>N= 5 箇所</td> <td>(5 箇所)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>頭部処理工</td> <td>N= 1 箇所</td> <td>(1 箇所)</td> <td>V= 44,000 m³</td> <td>(44,000 m³</td> </tr> </table>					集水井工	N= 32 基	(32 基)	L= 1,179 m	(1,162 m	集水ボーリング工	N= 1346 本	(1222 本)	L= 55,069 m	(47,384 m	横ボーリング工	N= 26 本	(34 本)	L= 5,024 m	(5,359 m	深礎杭工	N= 36 本	(36 本)	L= 1,375 m	(1,375 m	アンカー工	N= 224 本	(224 本)	L= 6,680 m	(6,680 m	排水トンネル工	N= 5 箇所	(5 箇所)			頭部処理工	N= 1 箇所	(1 箇所)	V= 44,000 m ³	(44,000 m ³
	集水井工	N= 32 基	(32 基)	L= 1,179 m	(1,162 m																																			
	集水ボーリング工	N= 1346 本	(1222 本)	L= 55,069 m	(47,384 m																																			
横ボーリング工	N= 26 本	(34 本)	L= 5,024 m	(5,359 m																																				
深礎杭工	N= 36 本	(36 本)	L= 1,375 m	(1,375 m																																				
アンカー工	N= 224 本	(224 本)	L= 6,680 m	(6,680 m																																				
排水トンネル工	N= 5 箇所	(5 箇所)																																						
頭部処理工	N= 1 箇所	(1 箇所)	V= 44,000 m ³	(44,000 m ³																																				
<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">着工年度</th> <th rowspan="2">前回再評価年度</th> <th rowspan="2">計画変更年度</th> <th colspan="4">完成予定年度</th> <th rowspan="2">休止期間</th> </tr> <tr> <th>着工時</th> <th>前回再評価時</th> <th>計変時</th> <th>再評価</th> </tr> <tr> <td>S32</td> <td>H24</td> <td></td> <td>H30</td> <td>H29</td> <td></td> <td>H34</td> <td>—</td> </tr> </table>					着工年度	前回再評価年度	計画変更年度	完成予定年度				休止期間	着工時	前回再評価時	計変時	再評価	S32	H24		H30	H29		H34	—																
着工年度	前回再評価年度	計画変更年度	完成予定年度					休止期間																																
			着工時	前回再評価時	計変時	再評価																																		
S32	H24		H30	H29		H34	—																																	
<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">事業費</th> <th colspan="4">全体事業費(千円)</th> <th rowspan="2">前年度まで(千円)</th> <th rowspan="2">進捗率(%)</th> </tr> <tr> <th>着工時</th> <th>前回再評価時</th> <th>計画変更</th> <th>再評価時</th> </tr> <tr> <td></td> <td>9,739,000</td> <td>10,040,000</td> <td></td> <td>10,714,000</td> <td>9,939,000</td> <td>92.8</td> </tr> </table>					事業費	全体事業費(千円)				前年度まで(千円)	進捗率(%)	着工時	前回再評価時	計画変更	再評価時		9,739,000	10,040,000		10,714,000	9,939,000	92.8																		
事業費	全体事業費(千円)					前年度まで(千円)	進捗率(%)																																	
	着工時	前回再評価時	計画変更	再評価時																																				
	9,739,000	10,040,000		10,714,000	9,939,000	92.8																																		
事業の進捗	<p>(1)整備効果の発現状況(供用開始など) これまで継続して抑制工及び抑止工を行った結果、地すべり変動は沈静化へ向かっており、施設整備による効果が発揮されている。</p> <p>(2)未着工及び工事遅延等の理由及び解決の見通し 平成2年度に施工した深礎杭工に地すべり土塊による応力が年々累積し続けている状況である。これまでの地下水排除工により累積傾向は以前より緩やかなものになっているものの、万一深礎杭が破損した場合は急激な地すべり活動を引き起こす恐れがあるため、さらなる応力低下のため地下水排除工の追加が必要となった。</p> <p>(3)関連事業の整備状況 関連事業は特になし。</p>																																							
	評価 (AA) ・ A ・ B ・ C																																							
社会・経済等の情勢及びその状況変化	<p>(1)地元(受益者、市町村等)の意向 地元からの要望もあり地すべり対策工事を進めてきた経緯もあり地元住民は協力的である</p> <p>(2)自然や生活環境保全の観点で特記すべき事項 特になし</p> <p>(3)事業が地域に及ぼす効果 保全対象として人家1,686戸のほか、国道204号・2級河川江迎川等が存在しており、大規模な地すべり活動が発生した場合には甚大な被害を及ぼすものと想定される。当事業を推進することで当地区の安全安心を確保すると共に、安定した社会経済活動に効果を発揮するものである。</p> <p>(4)事業に関連する評価・指標等</p>																																							
	<table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <td>前回評価時</td> <td>再評価時</td> <td>評価</td> <td>備考</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">必要性</td> <td>受益面積</td> <td>348ha</td> <td>348ha</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>受益戸数</td> <td>1766</td> <td>1,686</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>重要性</td> <td>地元要望の有無</td> <td>有</td> <td>有</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>緊急性</td> <td>緊急度合</td> <td></td> <td></td> <td>高</td> <td></td> </tr> <tr> <td>経済性</td> <td>投資効果</td> <td>1.60</td> <td>1.57</td> <td>中</td> <td></td> </tr> </table>							前回評価時	再評価時	評価	備考	必要性	受益面積	348ha	348ha	○		受益戸数	1766	1,686	○		重要性	地元要望の有無	有	有	○		緊急性	緊急度合			高		経済性	投資効果	1.60	1.57	中	
			前回評価時	再評価時	評価	備考																																		
	必要性	受益面積	348ha	348ha	○																																			
受益戸数		1766	1,686	○																																				
重要性	地元要望の有無	有	有	○																																				
緊急性	緊急度合			高																																				
経済性	投資効果	1.60	1.57	中																																				
評価 (AA) ・ A ・ B ・ C																																								
[土木部としての総合評価と対応方針]																																								
<table border="1"> <tr> <td>総合評価</td> <td>事業継続</td> <td>事業見直し継続</td> <td>休止</td> <td>中止</td> </tr> </table>						総合評価	事業継続	事業見直し継続	休止	中止																														
総合評価	事業継続	事業見直し継続	休止	中止																																				
総合評価に係るコメント																																								
<p>これまでに施工した対策工により、地すべり活動は沈静化に向かっており、一定の効果が現れている。しかしながら、平成2年度に施工した深礎杭工には地すべり土塊による応力が年々累積している状況であり、これが破損した場合は急激な地すべり活動を引き起こす恐れがある。当事業は費用対効果からみても経済性は妥当と判断され、保全対象の重要性、災害時の地域経済への影響を考慮した結果、地すべり対策工の施工が不可欠である。このため、事業を継続し当地区における地すべり対策の概成を目指したい。</p>																																								

平成29年度 長崎県公共事業評価監視委員会

詳細審議 再評価対象事業

砂防-1 鷲尾岳地区地すべり対策事業 (地すべり防止施設)

長崎県

1

事業概要

集水井工



深礎杭工



頭部排土工



排水トンネル工



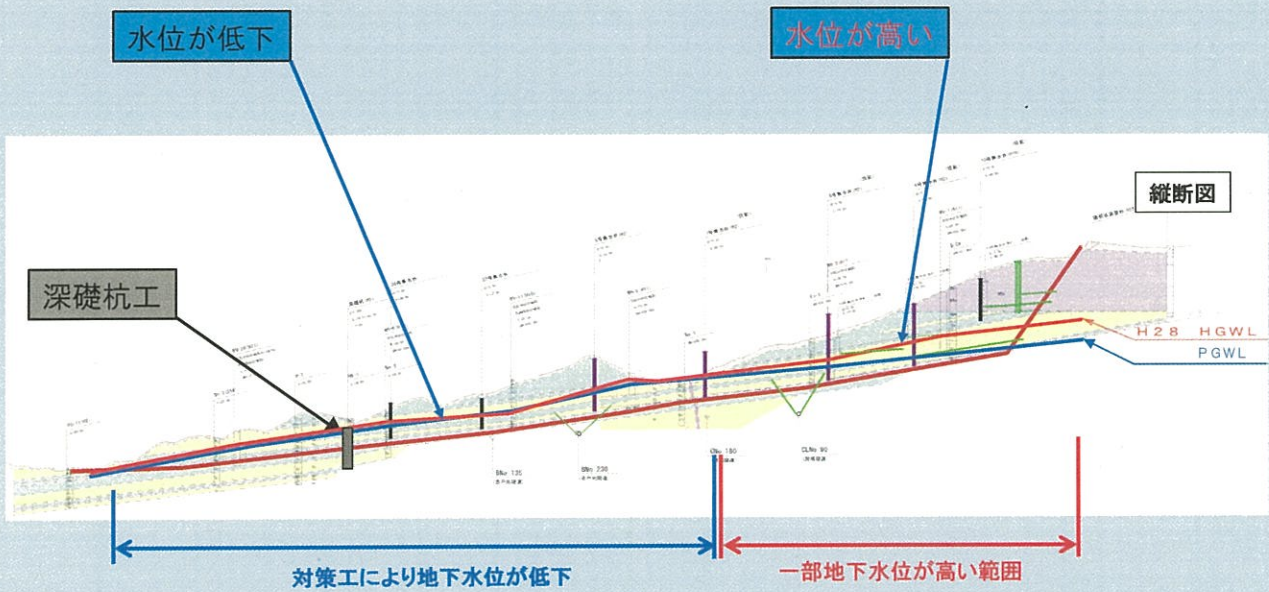
2

詳細説明（１）

【抑制工の追加】

全体的な地すべり活動はこれまでに施工された深礎杭や抑制工により鎮静化に向かっている。しかしながら、当初想定していたレベルまで地下水位が下がりきらなかったため、地すべり土塊が移動しようとする応力が年々深礎杭に累積している状況であった。

これを放置すれば深礎杭が破壊され、急激に地すべり活動が活発化する恐れがあるため、抑制工を追加したところ斜面中～下部の水位が低下し、深礎杭にかかる応力の蓄積も緩やかになった。

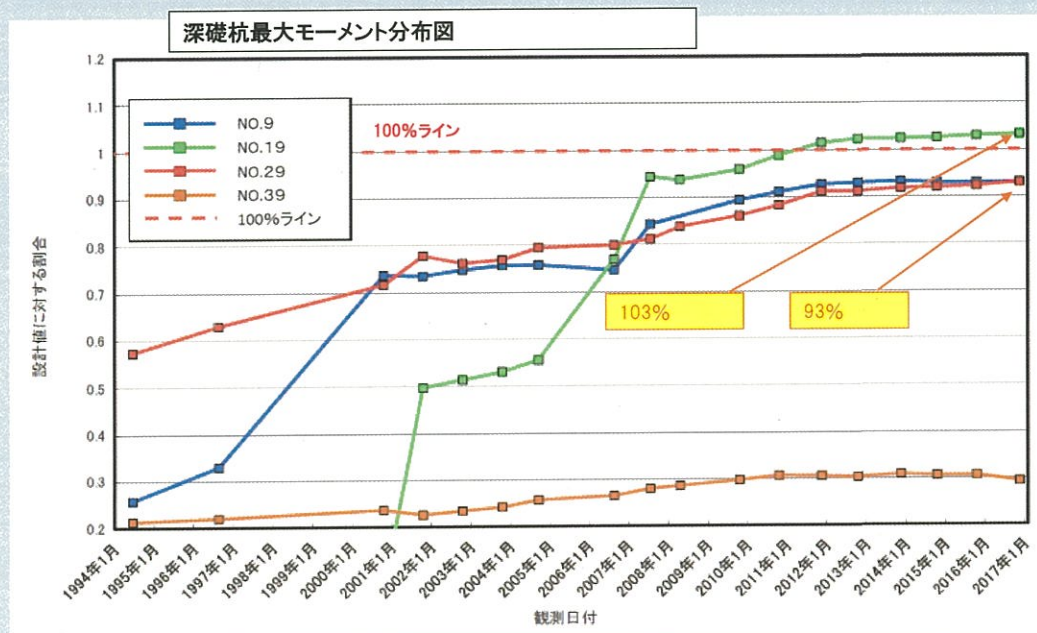


3

詳細説明（２）

【抑制工の追加】

H28年度時点で、深礎杭への負荷はNo.9、No.29で93%、No.19で103%まで累積している状況であり、いまだ年0.5%ずつ増加している状況にある。

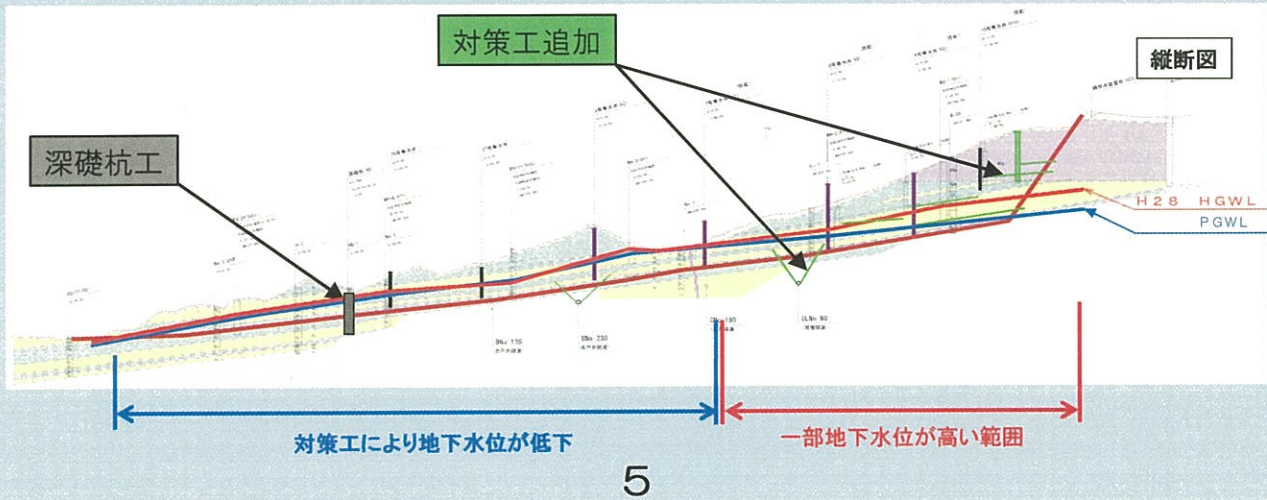


4

詳細説明（3）

【抑制工の追加】

地下水位が依然として高い範囲（主に斜面頭部域）の抑制工を追加し深礎杭への負荷の低減を図ることでH34概成を目指す。



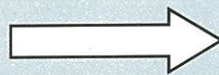
今後の予定

【完了工期】H34年度概成予定

〔今後の事業見通し〕

事業内容	H29	H30	H31	H32	H33	H34
追加対策工配置検討						
対策工事						
挙動観測						

対応方針
(原案)



事業継続